

| | | | | | |
|-------------------|---|------------|------------|------------|-----------|
| 都道府県・指定都市番号 | 44 | 都道府県・指定都市名 | 大分県 大分市 | 研究課題番号・校種名 | 2(4) 高等学校 |
| | | | | 領域名 | ESD |
| 研究課題 | 学校全体で取り組む研究課題 (4) ESDを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 | | | | |
| 学校名 (児童・生徒数) | おおいたけんりつおおいたおぎのだいこうとうがっこう 大分県立大分雄城台高等学校 (704人) | | | | |
| 所在地 (電話番号) | 大分県大分市大字玉沢 1250 番地 (097-541-0123) | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | http://kou.oita-ed.jp/oitaoginodai/index.html | | | | |
| 研究のキーワード | 「大分雄城台高校が育成したい六つの資質・能力」 「単元配列表」 「単元デザインシート」 「OGI学プロジェクト」 「人間関係づくりプログラム」 | | | | |
| 研究結果のポイント | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育目標を具体化する「大分雄城台高校が育成したい六つの資質・能力」の明確化 ○ どの時期に、どの教科・科目でどのような力を育成するのか、それを総合的な探究の時間にどうつなげるのかを見える化する「単元配列表」の作成 ○ 各単元でどのような力を育成するのか、そのためにはどのような学習過程で学ばせ、どのように評価するのかを明確にするための「単元デザインシート」の作成 ○ 興味・関心とSDGsと進路の方向性を関連付けた探究活動「OGI学プロジェクト」の実施 ○ 資質・能力育成の基盤となるOGIメモを活用した「人間関係づくりプログラム」の実施 | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

| |
|--|
| ESDの視点を踏まえた授業とSDGsを題材とした総合的な探究の時間の教科横断的連携による「持続可能な社会の構築に貢献できる資質・能力」を育成する指導と評価の研究 |
|--|

(2) 研究主題設定の理由

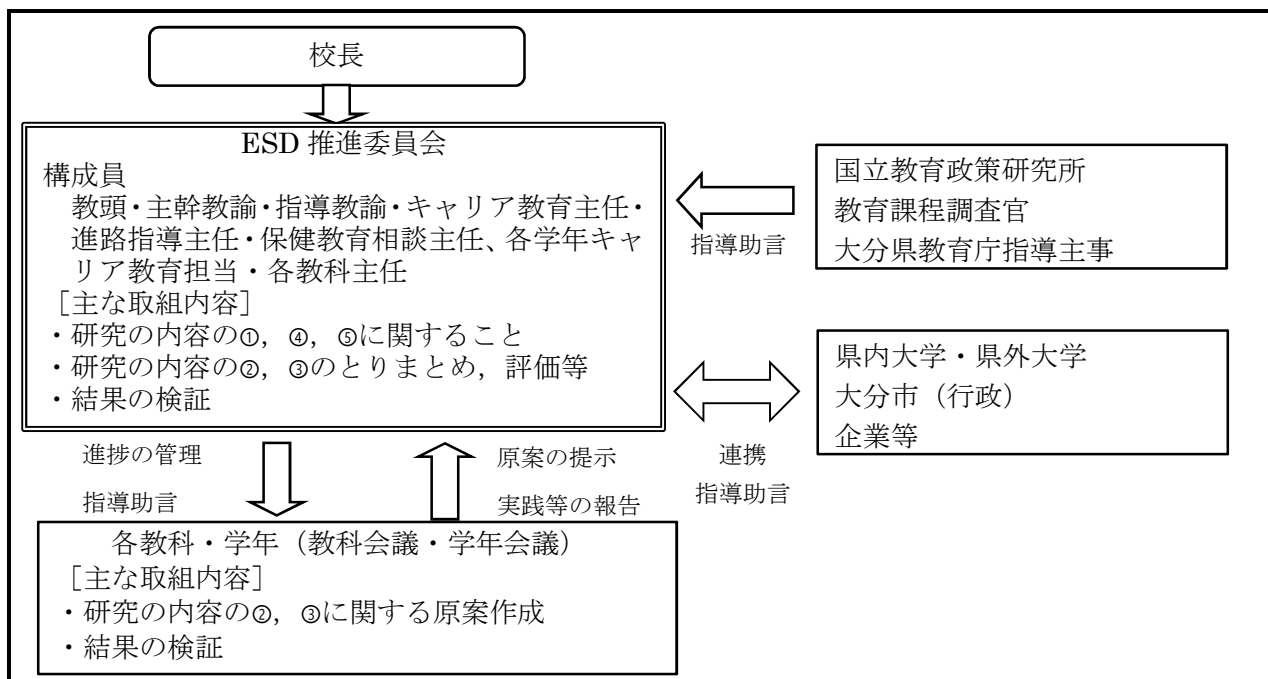
本校の教育目標である『誠実・自主・創造』の校訓のもと、社会において逞しく生き抜き、積極的に社会貢献できる生徒の育成の具現化に向けて、全教科・科目を挙げて「読解力」と「表現力」の育成に焦点を当てた組織的な授業改善に取り組んでいる。また、総合的な探究の時間では、SDGs（持続可能な開発目標）と生徒のキャリア形成の方向性とを関連付けた探究活動に令和元年度から取り組み始めたところである。

各教科・科目で学んだことを総合的な探究の時間に生かしたり、総合的な探究の時間での学びを各教科・科目等に生かしたりすることが不十分で、学校での学びが実社会でどのように役立つかを実感できずに、教科を学ぶ意義や有用性を見いだせない生徒が少なくない。社会とのつながりを意識して社会や地域の課題を発見する力や解決する力、他者と協働して課題解決に向けて挑戦していく態度等を発揮する機会が十分ではなく、生徒たちに社会や地域とのつながりを実感させ、未来に向けた広い視野を醸成することは喫緊の課題である。

そこで研究に際しては、ESDの視点に立って、本校で育みたい持続可能な社会の構築に必要な資質・能力を「情報整理力」「課題解決力」「発信力」の三つの能力と「協働」「自他の尊重」「チャレンジ精神」の三つの資質として整理し、これらの資質・能力の育成に向けた各教科・科目及び総合的な探究の時間の3年間の指導と評価の計画を作成する。

この研究を通して、ESDを媒介として各教科等の単元内容や教材とのつながりを見える化する教科等横断的な学びの視点と、ESDの視点から育成を目指す資質・能力や学習過程を整理した総合的な探究の時間及び各教科・科目の単元デザインによる系統的な学びの視点とを生徒、教員の双方で共有する。それにより、生徒が社会や地域とつながり、そのつながりの中での実践的な経験を積み、「持続可能な社会の構築に貢献できる資質・能力」を育成することができると考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組 ○生徒対象 ●教員対象

| | | |
|-------|-----|---|
| 令和2年度 | 4月 | ●職員研修～ESD 研究内容の共有 ○生徒向けガイダンス～ESD に関するオリエンテーション |
| | 5月 | ●各教科による単元デザインシート作成 (～3月) |
| | 6月 | ○「探究ナビ」テキストとワークを利用した思考ツールの活用 ○OG I メモを活用した人間関係づくりプログラムの開始 (毎週月曜日～3月) |
| | 7月 | ○「SDGs まちづくりアイデアコンテスト」を利用した探究活動 ●第1回校内授業研究会 ○アンケートによる生徒の実態調査 |
| | 8月 | ●職員研修～単元配列表・単元デザインシートについて ○「SDGs まちづくりアイデアコンテスト」中間発表会 ○ESD に関するルーブリック評価の実施 |
| | 9月 | ○人間関係づくりプログラムに係る講演会 (株式会社スマイルワークス 村田 祐造氏) ○SDGs を踏まえた地域課題研究テーマ決め ●各教科による単元配列表の作成 (～12月) ○ESD についての講演会 (岡山大学大学院 ESD 協働推進室 柴川 弘子氏) |
| | 10月 | ●第2回校内授業研究会 ●ESD 教育課程研究指定事業中間報告会 (教育課程調査官による指導) ○SDGs を踏まえた地域課題研究レポート作成 (～1月) |
| | 11月 | ●各教科による単元デザインシートの作成 |
| | 12月 | ●先進校視察 (岡山県立岡山一宮高校・岡山県立矢掛高校) ○ESD についての講演会 (東京女子大学 安部 由紀子氏) |
| | 1月 | ●職員研修～単元配列表・単元デザインシートの作成 |
| | 2月 | ○アンケートによる生徒の実態調査・ESD に関するルーブリック評価の実施 |
| | 3月 | ○ESD 成果発表会 ●研究のまとめ |

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

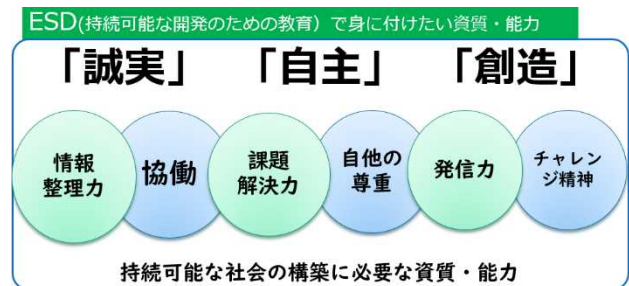
- ① ESD で育成したい資質・能力の明確化 (六つの資質・能力) (主担当：管理職)
- ② 六つの資質・能力を育成するための各教科・科目及び総合的な探究の時間の3年間の指導計画の作成 (教材のつながり) (主担当：指導教諭)

- ③ 六つの資質・能力を育成するための各教科・科目及び総合的な探究の時間における単元デザインシート（指導と評価の計画）の作成（資質・能力のつながり）（主担当：指導教諭）
- ④ 六つの資質・能力を育成するための総合的な探究の時間における地域の人的・物的リソースの活用（人とのつながり）（主担当：キャリア教育）
- ⑤ 六つの資質・能力を育成する基盤づくりのための人間関係づくりプログラムの実施（心のつながり）（主担当：保健・教育相談）

(2) 具体的な研究活動

① ESDで育成したい資質・能力の明確化

- ESDが重視する、「批判的に考える力」「未来を予測して計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」の7つの資質・能力を本校の教育目標や校訓、学校文化を基に六つの資質・能力に整理。
- 六つの資質・能力は、新学習指導要領が示す新しい時代に必要となる資質・能力であり、「情報整理力」「課題解決力」「発信力」の三つは、本校の課題・弱み、「協働」「自他の尊重」「チャレンジ精神」の三つは、学校スローガンである「日日全力」「文武両道」のもと、真の文武両道を追い求めて勉学と部活動に励みながら脈々と育んできた本校の伝統・強みと捉えている。



② 資質・能力を育成するための各教科・科目及び総合的な探究の時間の3年間の指導計画の作成（教材のつながり）

- 各教科・科目の学びを探究活動に生かしていくようにするために、本校が育成した六つの資質・能力で教材をつなぐ「単元配列表」を作成。
- どの時期に、どの教科・科目でどのような力を育成するのか、それを総合的な探究の時間にどうつなげるのかを見える化するとともに、各教科・科目の学びとESDとのつながりについても見える化した。

③ 資質・能力を育成するための各教科・科目及び総合的な探究の時間における単元デザインシート（指導と評価の計画）の作成（資質・能力のつながり）

- 各単元でどのような力を育成するのか、そのためにはどのような学習過程で学ばせ、どのように評価するのかを明確にするための単元デザインシートを作成。
- 単元ごとに、六つの資質・能力のどれを育成するのかを明確化し、その力が身に付いたかどうかを見取るためのレポート（振り返り）を単元ごとに実施することで、評価方法の研究を行った。レポートテーマについては、オープンエンドのテーマを設定するとともに、SDGsの17の目標のいずれかとの関連付けも図り、教科の学習がESDを考える動機づけとなるようにした。

資質・能力ベースの単元名 国語科(現代文B) 単元デザインシート 関連するSDGs

単元名 評論「『である』ことと『すること』」を読んで論理性を評価することを通して自分の考えを深める。

単元目標 文章を読んで批評することを通して社会について自分の考えを深めようとする。【関心・意欲・態度】
学んだ内容を現代の自分に関連づけて自らの社会観を深めたり展開せたりする。【読む能力】

| 学習課題(主たる問い) | 情報整理力 | 課題解決力 | 発信力 | 協働 | 自他の尊重 | チャレンジ精神 | 学習活動 |
|-------------|-------|-------|-----|----|-------|---------|--|
| 1次(4時間) | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 文章の構成や展開を読み取る。 接続詞や指示語、具体例などに注意し、キーワードやキーセンテンス |
| 2次(3時間) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ペアやグループで文章の構成や展開について話し合い、問いに対する考えをまとめる。 ペアワークやバスセッションを行い、根拠を示しながら考察する。 |
| 3次(3時間) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 知識構成型ジグソー法を用いて、他の文章を読んで複合的に考える問題点について考察する。 グループでの意見交換をし、個人の考えをまとめる。 話し合った内容を基に、課題に対する意見を800字で論述する。 「『価値の再転倒』のためには、どのように思考し、行動すべきか?」 |

身に付けさせたい6つの資質・能力

身に付いた力を見取るための課題テーマ

評価基準(ルーブリック)で評価する

《評価基準(ルーブリック)》
A:筆者の主張を正確に捉えたとうえで、現代日本の問題を本文の内容に即して具体的に述べている。
B:筆者の主張を捉えたとうえで、現代日本の問題を本文の内容に即して述べている。
C:本文の内容を踏まえ、現代日本の問題を述べている。

- いくつかの教科で単元デザインシートを生徒と共有して、授業の実施、評価の実践。

④ 資質・能力を育成するための総合的な探究の時間における地域の人的・物的リソースの活用（人とのつながり）

- 総合的な探究の時間のプロジェクト名を決定。
OGI (Oita・Global・Inspiration) 学プロジェクト～Inspire globally in Oita (大分から世界への創造的なひらめきを学ぶプロジェクト)
- 1年生はSDGsを題材に、地元大分市を中心とする地域の活性化に向けた、地域課題の発見及びその解決方法についての探究活動を行い、2年生はSDGsと自身のキャリア形

成の方向性を意識した探究活動を行った。

- 地元大分市を中心に、地元産業や企業との連携強化を図り、地域の人的・物的リソースを活用して、探究活動を実施する計画であったが、コロナ禍で予定通り実施できなかった。遠隔配信による連携は実施できたので、今後も可能性を広げていきたい。

⑤ 資質・能力を育成する基盤づくりのための人間関係づくりプログラムの実施 (心のつながり)

- OGIメモを活用したペアワークを通して、他者理解や自己理解を促し自尊感情を高めるための構成的グループエンカウンターを短時間・継続的に毎週実施して、「協働」や「自他の尊重」の育成を図り、学びの基盤づくりを行った。
- 毎週月曜日の朝学習の10分間で、OGIメモの1週間の振り返り欄を使い、先週の振り返り内容（ほめポイント・さらにポイント・来週に向けて）を記入。終礼時の6分間で、ペアワークで振り返りのシェアリングを行い、その後相手の手帳のメモ欄に応援メッセージを記入。（適切な自己開示・傾聴・相手への前向きな声かけ等のスキルを身につけ、基本的人間関係づくりを体験）

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- ESDの視点に立って、本校で育みたい持続可能な社会の構築に貢献できる資質・能力を整理することができたことで、教育目標の具体化・共有化が図れた。
- ルーブリック評価の結果と生徒向け探究活動アンケートによって、六つの資質・能力の強みと弱みの捉え方に間違いがないことがわかった。生徒は、特に「課題解決力」と「発信力」に課題があると感じている。
- 単元配列表を資質・能力ベースで考えることによって、教科・科目の特性の違いを考えるいい機会となり、資質・能力との関連を意識した授業が行われるようになった。
- 単元デザインシートを教科会議で検討するようにした結果、各単元における身に付けさせたい力を資質・能力ベースで考え、教科内で共有することができた。
- 単元デザインを考えることで、1時間の授業と、身に付けさせたい資質・能力との関連を意識した授業が行われるようになった。
- 大分雄城台高校の3年間の探究活動のサイクルが定まった。
- ESD講演会によって、生徒のSDGsへの関心が高まり、地域から世界へと視野が広がる契機となった。
- 探究のサイクル(課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り)を、ミニ探究でまわすことができた。
- SDGsについて理解を深め、探究テーマとSDGsの関連を意識した上で探究活動に取り組むことができた。
- 人間関係づくりプログラムに関する生徒アンケートの結果では、シェアリングで聞いてもらうことや応援メッセージを書いてもらうことが、次の活動の励みになると肯定的に答えた生徒の割合が80%を超えている。
- コロナ禍の影響で、生徒に六つの資質・能力について十分に説明・周知する機会が少なかった。
- ESDのルーブリック評価や生徒アンケート調査の分析から、今後生徒にメタ認知能力を育てる必要がある。
- 単元配列表の教科・科目の特性に応じた六つの資質・能力の育成のバランスを整え、教科・科目と総合的な探究の時間の資質・能力ベースでのつながりをさらに整理する必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、外部機関との連携に関する当初の計画は大きく変更となった。次年度に向け再度計画を検討しなければならない。
- 探究テーマを決める「課題・問い」の立て方への指導と「調べ学習」からの脱却が必要。

4 今後の取組

- (1) 全ての教科・科目及び総合的な探究の時間で単元デザインシートの作成を継続し、生徒と共有して授業の実施、評価、改善を行う。
- (2) 各教科・科目での学びの成果を総合的な探究の時間に生かすための単元配列表の改良。
- (3) ESDの視点に立った生徒の主体的な活動（探究活動、生徒会活動等）の活性化を図る。